

認知症ケア医療介護連携体制の構築事業 R2年度実績報告

三重大学医学部附属病院 認知症センター

◇目的

三重県もの忘れネットワークにおける多職種間の連携・協働を進めるために、「認知症ケアの医療介護連携体制構築事業（令和2年度）」の中で、各地域で病診連携、医福連携を展開していくための基盤整備を行うことを目的とし、同時に「みえる手帳」の普及啓発活動を進めました。

◇対象者

三重県内のモデル地区在住で、認知症の疑いのある方

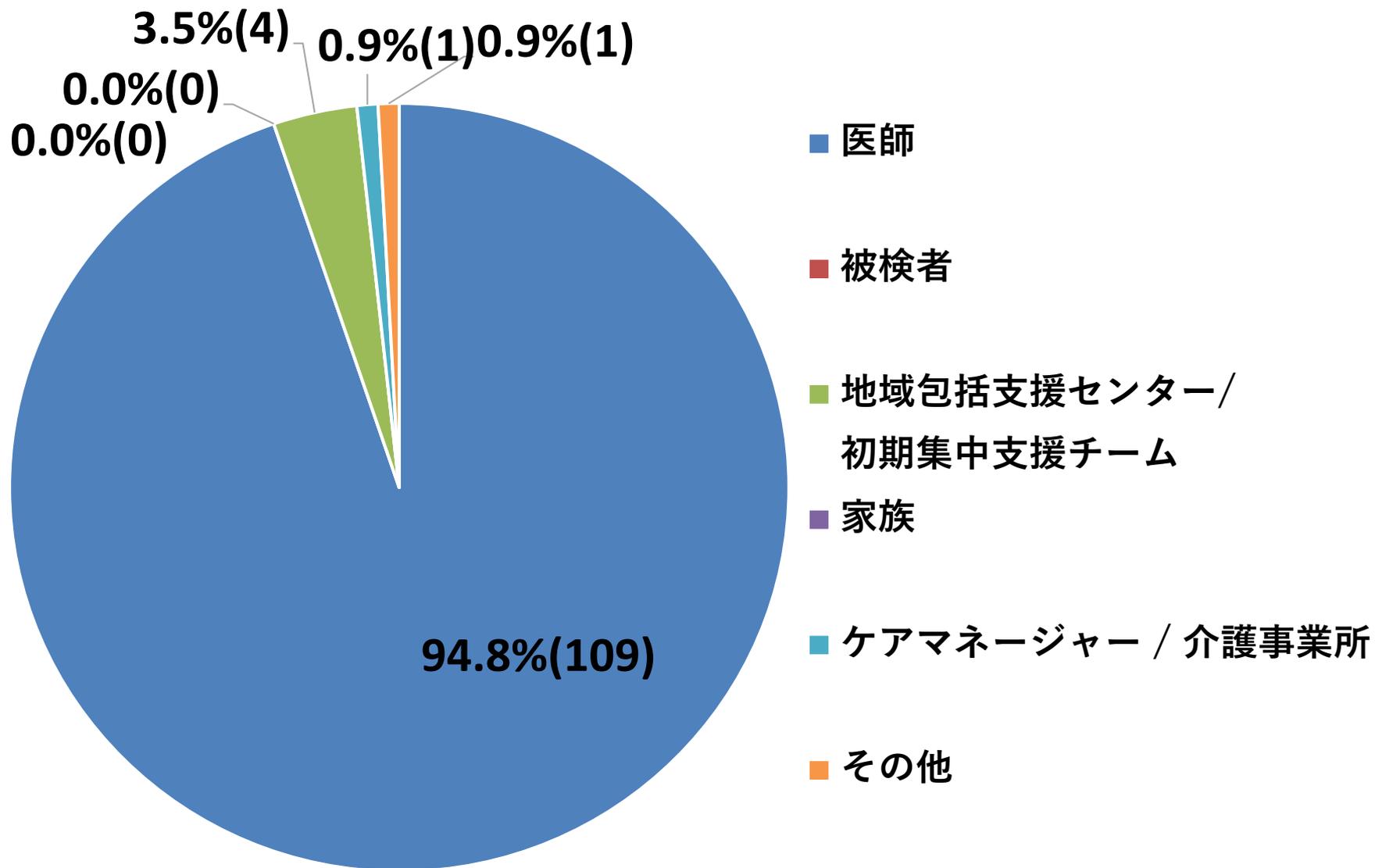
◇方法

- 三重県内のモデル地区(桑名市、木曾岬町、四日市市、朝日町、川越町、菰野町、鈴鹿市、津市、松阪市、多気町、大台町、明和町、伊勢市、玉城町、熊野市、紀宝町、御浜町)で事業を実施します。
- かかりつけ医からスクリーニングの依頼を受け、認知症連携パス推進員がITスクリーニングによる認知症機能評価を行います。
- 当センターの認知症専門医によるコメントをお返しし、認知症の早期発見・対応の判断資料として活用していただきます。
- 必要に応じて「みえる手帳」を病診連携・医福連携に活用するよう啓発活動を行います。

◇結果

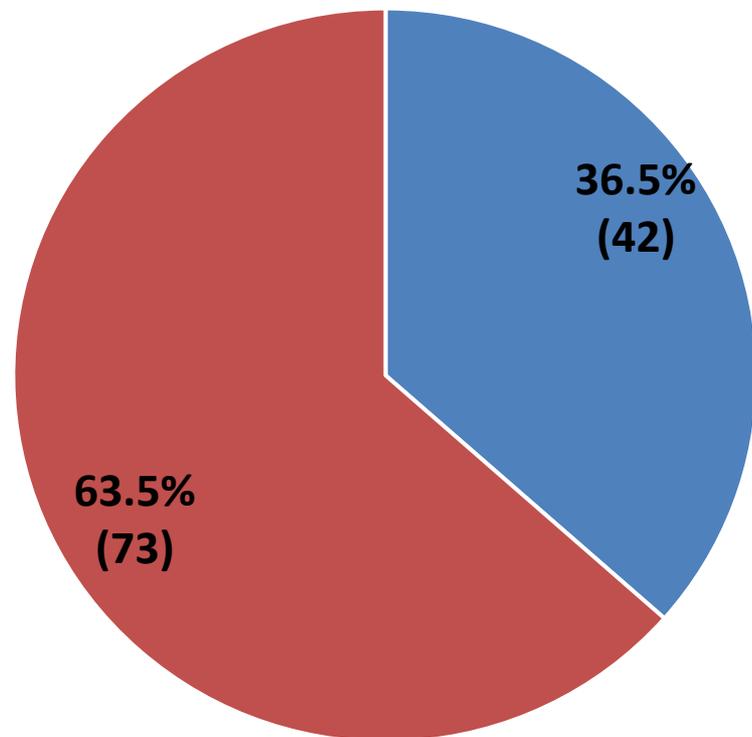
- スクリーニング実施数は115名で、医師からのスクリーニング希望が多くありました(94.8%)。
- 男女比は男性36.5%、女性63.5%でした。
- 介護保険の要介護度は、未申請70.4%とお元気な方が多く、家族構成は配偶者と二人暮らし(36.5%)、もしくは同居家族のいる世帯(38.3%)が多かったです。
- BPSDがある方(33.9%)の内容は、妄想、易刺激性、アパシー、幻覚、暴言など初期から中期によく見られる症状が多かったです。
- スクリーニング結果は、62.6%の方が専門医療機関受診を推奨され、その内63.9%の方が、かかりつけ医から専門医療機関へ紹介されました。
- 専門医療機関での鑑別診断結果は、認知症の診断あり74.4%、軽度認知障害(MCI)4.7%、認知症は否定7.0%、その他及び不明は14.0%でした。

スクリーニングの相談経路 (N=115)



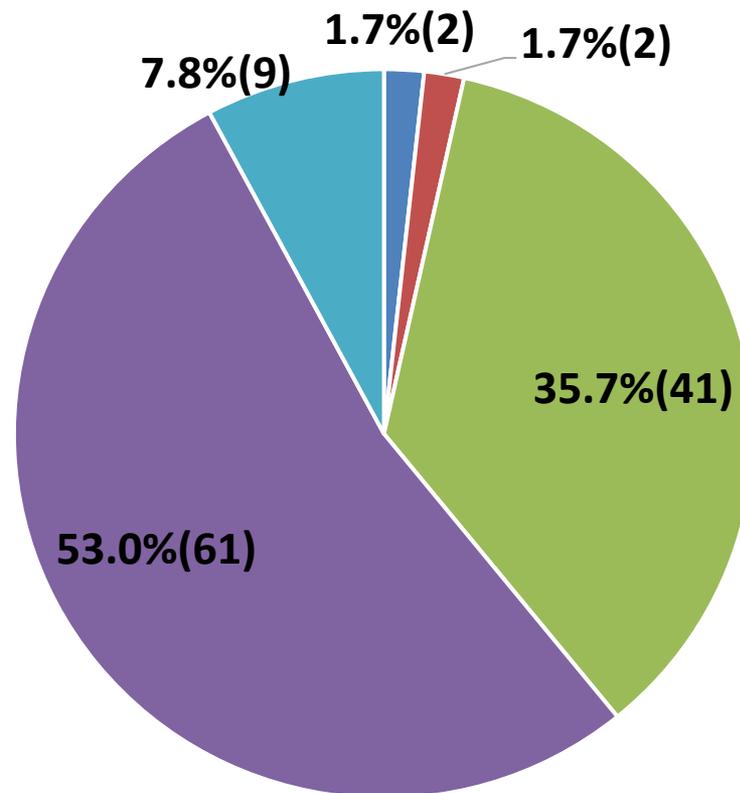
患者の性別と年齢 (N=115)

被検者の性別



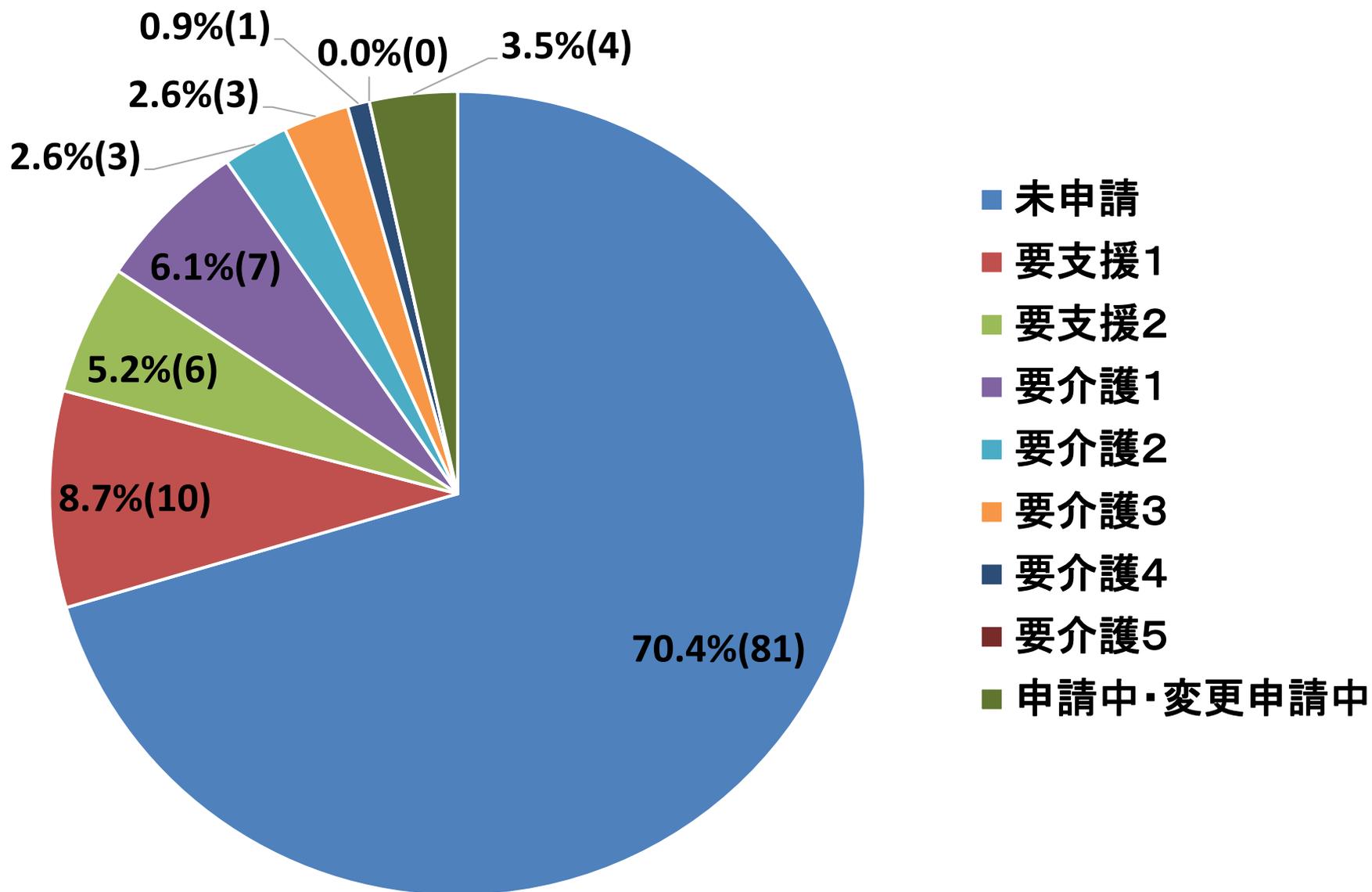
■ 男 ■ 女

被検者の年齢

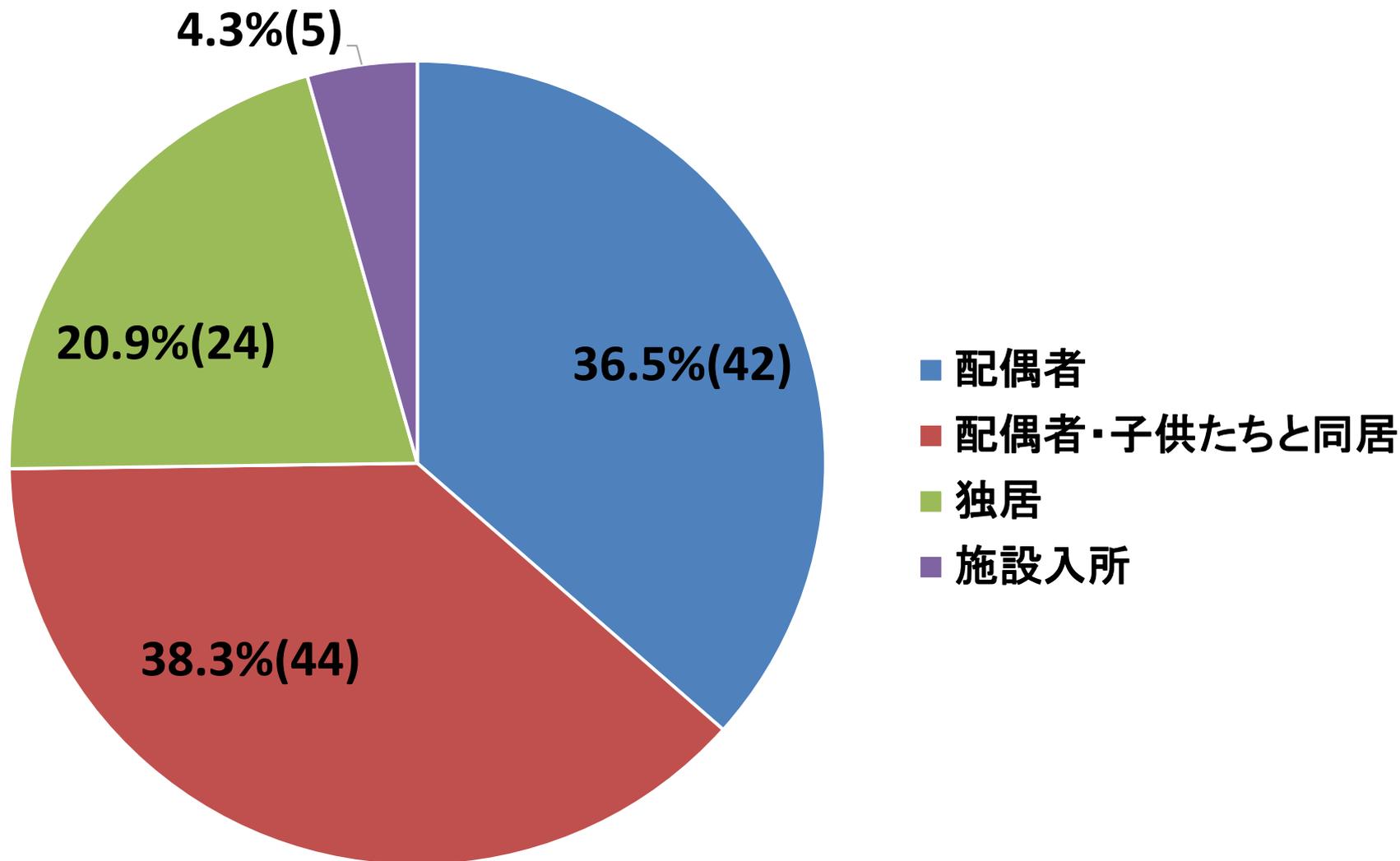


■ 64歳以下
■ 70歳代
■ 90歳以上
■ 65~69才以下
■ 80歳代

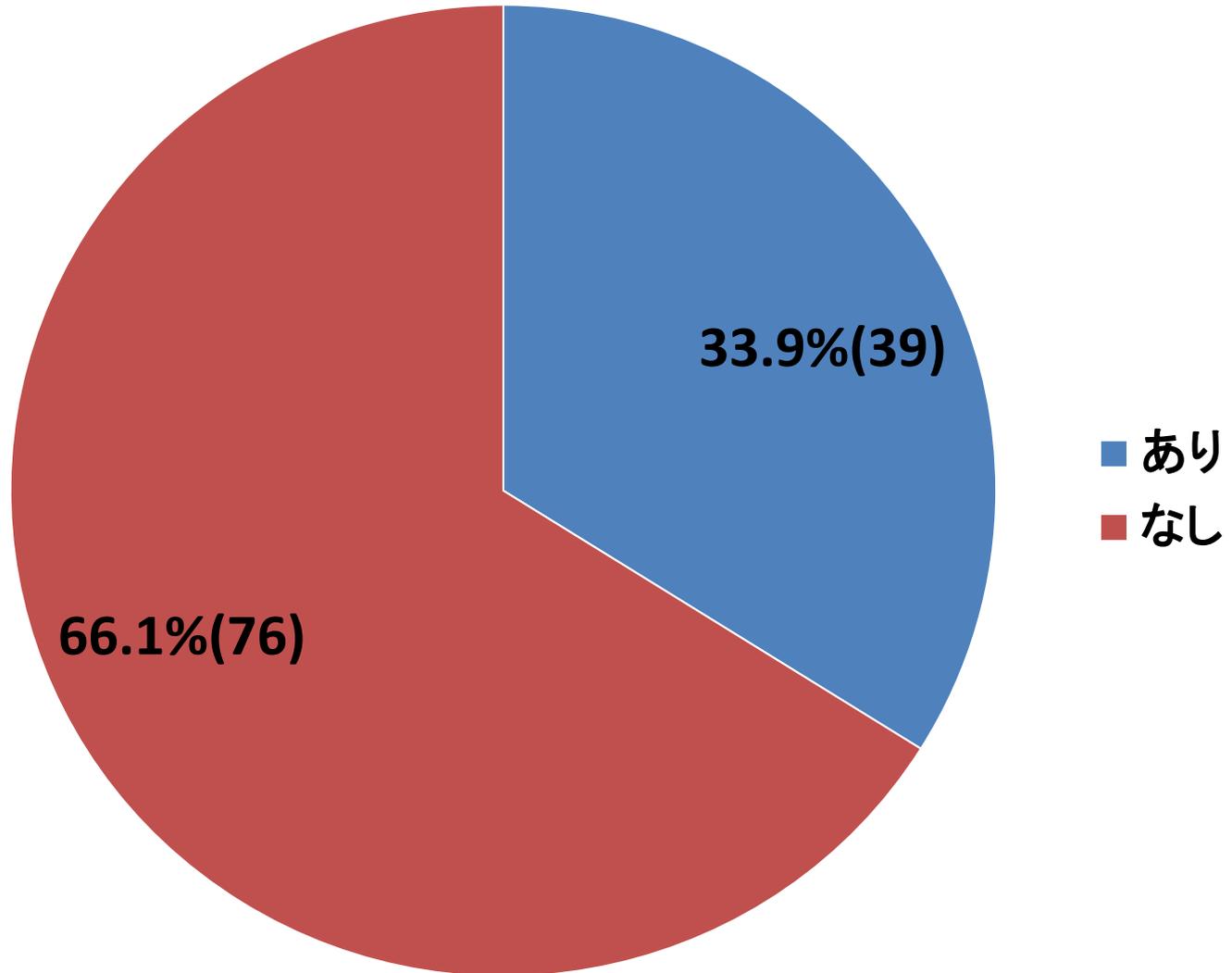
患者の要介護度(N=115)



家族構成 (N=115)

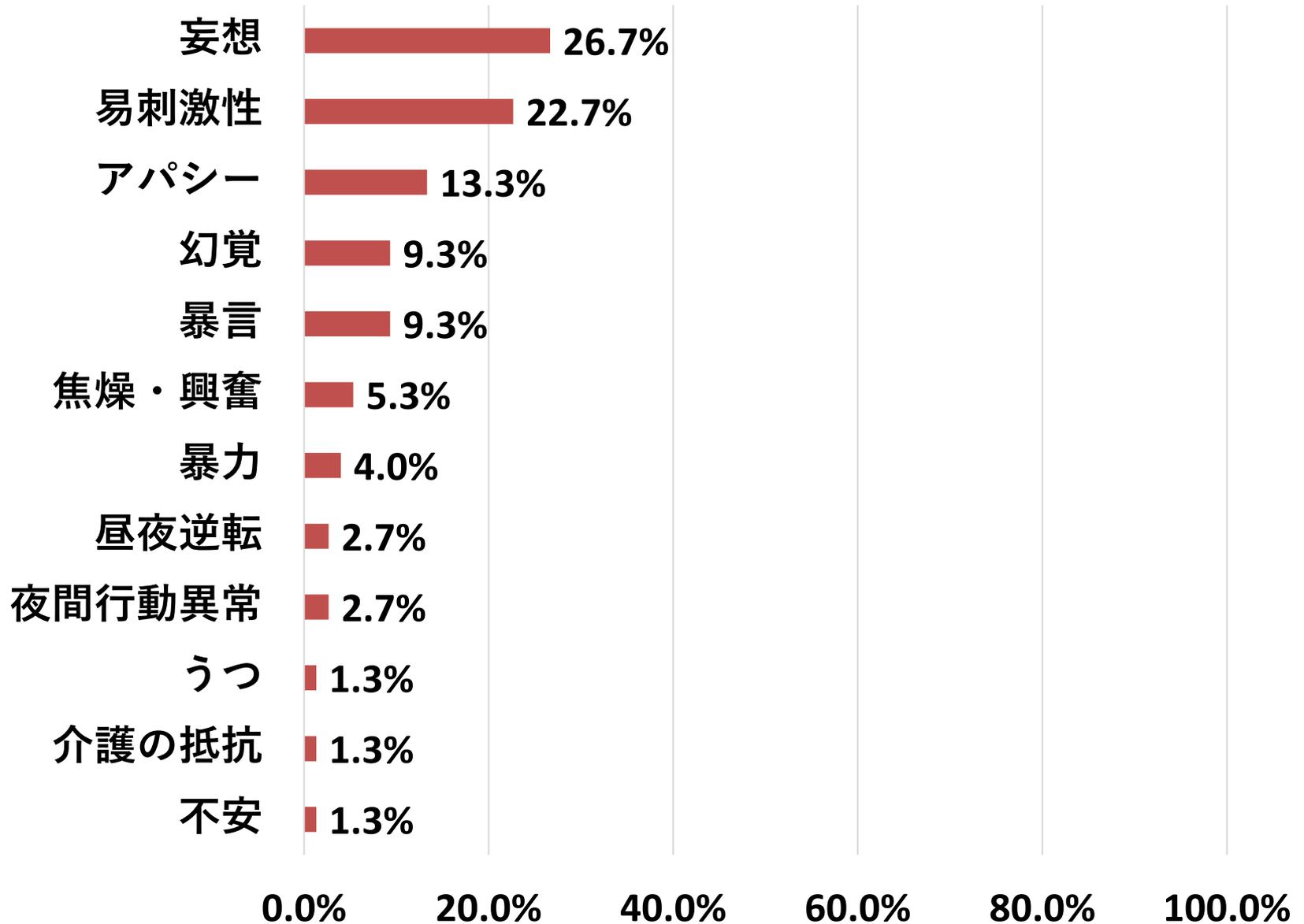


BPSDの有無(N=115)



BPSDの内容(%) (N=39)

※複数回答あり



※聞き取りで挙げた内容のみ掲載しています

スクリーニング結果 平均得点 (N=115)

MMSE	22.3 ± 5.0
BFB	37.1 ± 8.1
AOS	40.7 ± 23.9
ADL(%)	93.7 ± 15.2

<患者に対して実施する評価

>

◎ Mini Mental State Examination (MMSE)

→ カットオフ値 23/24

◎ Brain Function Battery (BFB)

→ カットオフ値 40/41

} 認知機能検査

<介護者に対して実施する評価

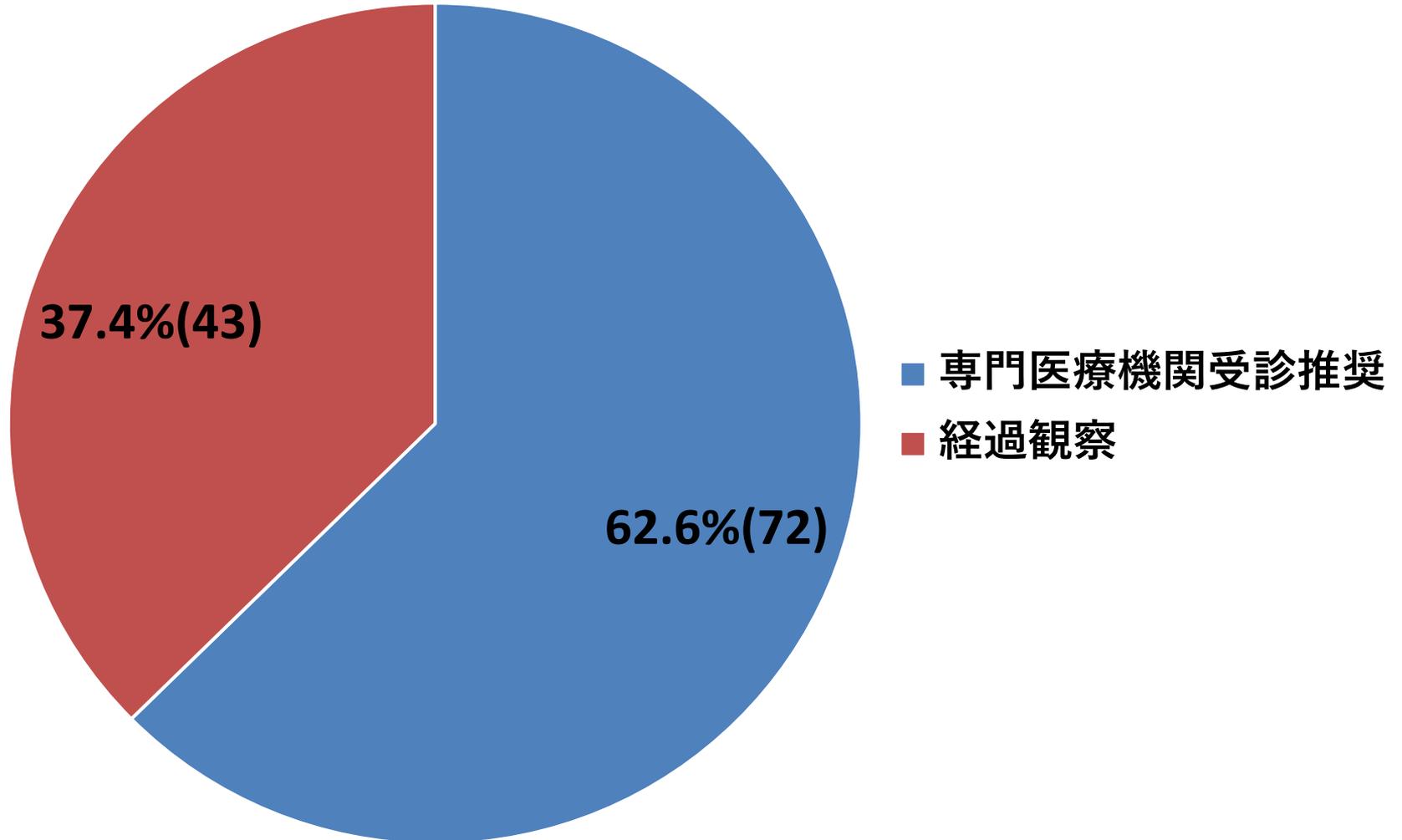
>

◎ Action Observation Sheet (AOS)

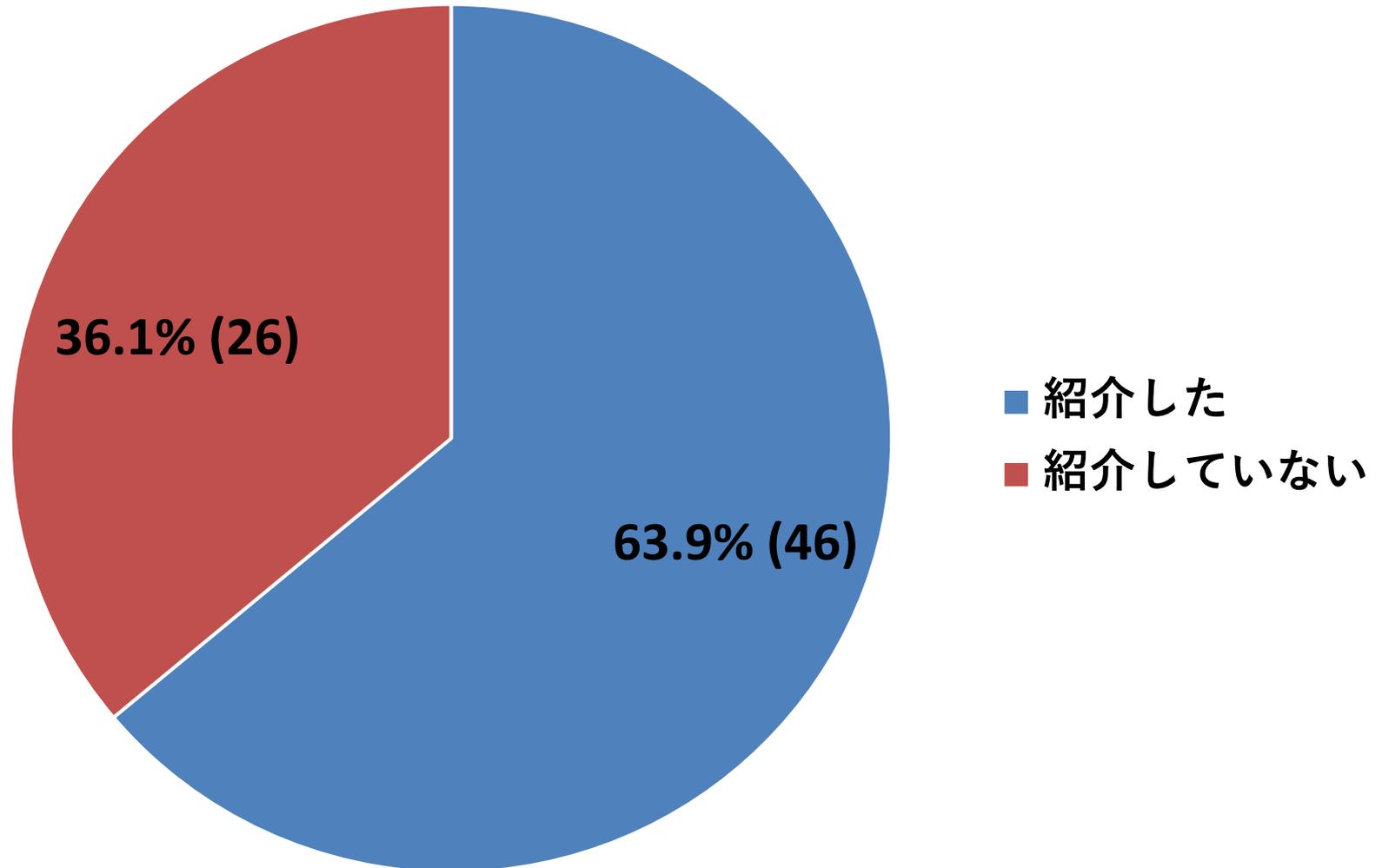
→ 9点以下; 正常/10~19点; 境界/20点以上; 認知症

} ADL、BPSD、
日常生活の様子 等

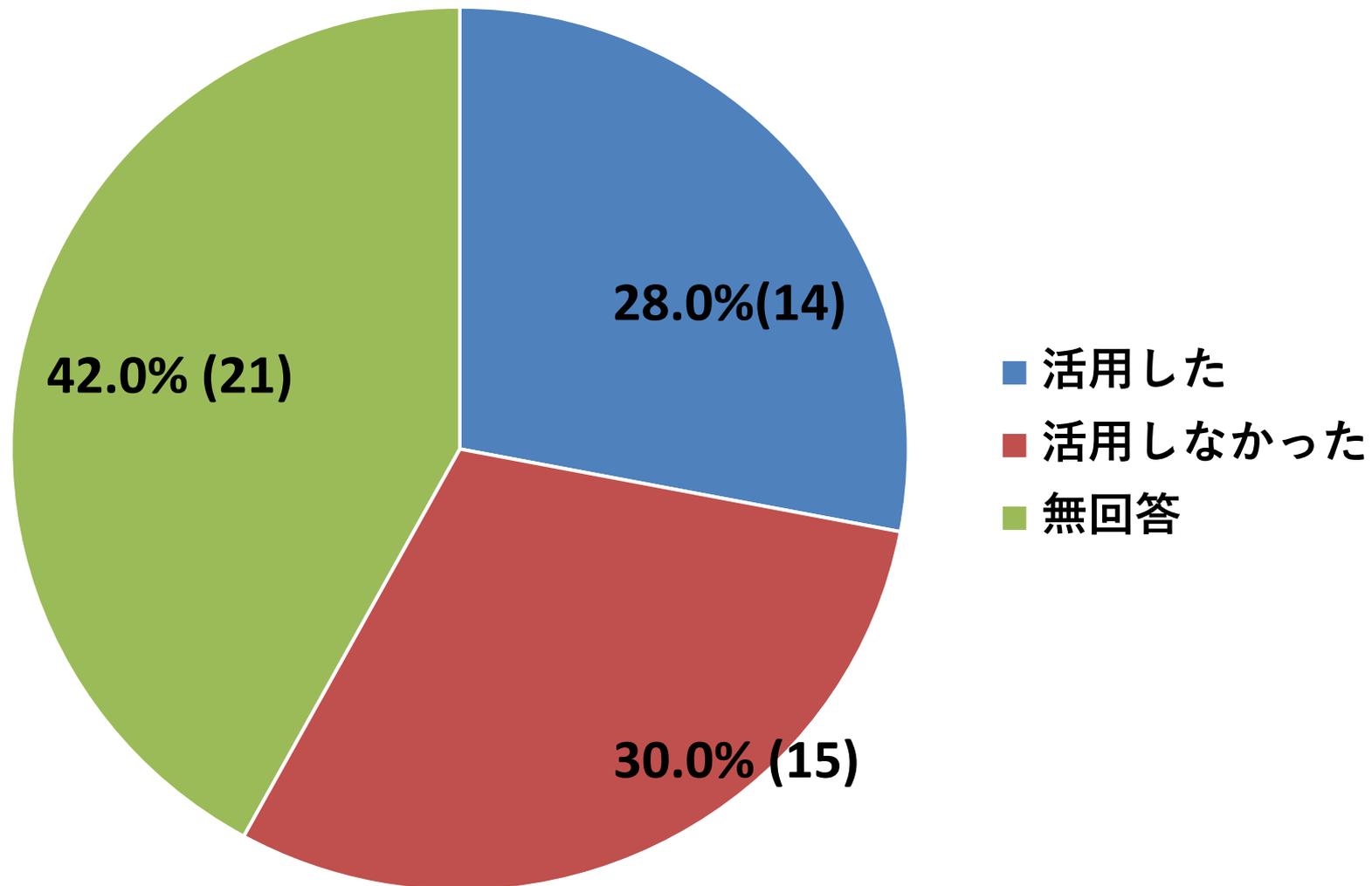
コメント結果(N=115)



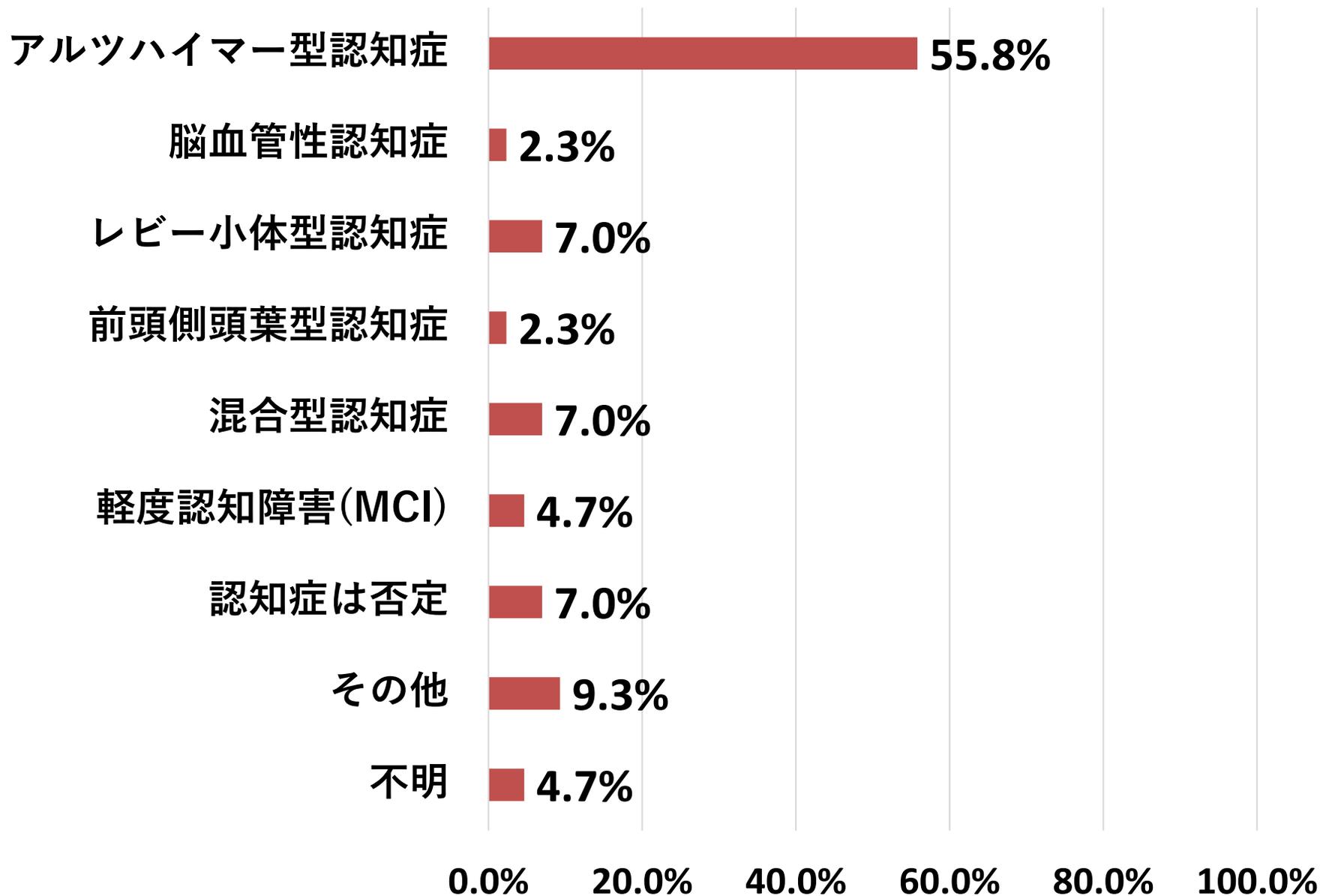
専門医療機関受診推奨群の紹介の有無(N=72)



専門医療機関紹介の際の 「みえる手帳」使用の有無(N=50)



鑑別診断結果 (%) (N=43)



■2020年実績 まとめ

